

第6学年2組 虹の輪学習指導案

授業日 平成29年9月29日(金) 6校時

授業者 附属新潟小学校 教諭 浅間 一城

会場 6年2組教室

1 単元名 「わたしたちのにいがた未来ビジョン—残したい!鳥屋野潟を新潟の未来へ—」

2 本単元の価値

本単元の目標は、次の通りである。

鳥屋野潟にかかわる活動を通して、鳥屋野潟は、自然環境や人々の生活、文化などが相互に関連付いて存在しているという相互性の概念を認識し、形成された概念を発揮して、自分と実社会や実生活の諸問題を結び付けて考えることができる。

探究課題は、次の通りである。

【探究課題】

・鳥屋野潟を将来にわたり残していくためのひと・もの・ことなどのかかわり

本単元では、新潟市にある鳥屋野潟(周辺環境を含む)を探究課題として扱う。

新潟市は、平成27年4月に出したにいがた未来ビジョンで「豊かな自然、田園からなる『大地』の持つ力・資源を最大限に引き出し、有効活用することで、子育て環境や健康づくり、まちの魅力向上、資源循環型社会の実現、魅力ある働き方などを創り上げ、新潟にしかない豊かな暮らしの実現を目指す」としている。

鳥屋野潟は、新潟市の中心部に位置しながら、準絶滅危惧種であるアサザといった植物や、ニホンイシガメやオオタニシなどの生き物が生息している。また、周辺は緑豊かな自然に囲まれ、四季を感じることができる。さらに、鳥屋野潟の中から見ると、普段見ている景色と大きく異なり、鳥屋野潟の雄大さを感じられる。周辺をウォーキングする市民も多く、人々の憩いの場ともなっている。このように豊かな自然環境をもつ鳥屋野潟に直接触れることで、子どもたちは鳥屋野潟の魅力を存分に感じることができる。

しかし、鳥屋野潟は、過去から現在に至るまで今の豊かな自然環境を保ってきたわけではない。今から60年ほど前までは、鳥屋野潟の水は、周辺の家庭に引かれて生活用水として利用されていた。また、漁業が盛んであり、そこで捕れる魚は広く市民に食されてきた。つまり、鳥屋野潟と人々の生活の間には、深いつながりがあった。しかし、周辺地域の都市化に伴い、上水道が整備されることで、鳥屋野潟の水を必要とすることが減り、徐々に鳥屋野潟と人々の生活のつながりが薄れていった。今から50年ほど前には、鳥屋野潟に生活排水が流れ込んだり、ゴミが捨てられたりして、劣悪な水質となっていた。そのような状況を改善することを人々が願い、行政と協力しながら様々な努力や工夫を重ね、現在の自然豊かで人々に親しまれる鳥屋野潟の姿が保たれているのである。また、鳥屋野潟の価値を多くの人々に再認識してもらうべく、新たな文化を創造し発信する様々な取組が、現在行われている。

このように鳥屋野潟は、周辺環境も含め豊かな自然環境や人々の生活、伝統的文化や新たな文化などが相互に関係し合っており、現在の魅力ある鳥屋野潟として存在しているのである。鳥屋野潟を総合的に学ぶことは、持続可能な社会づくりの視点である相互性を学ぶことにつながる。ここに、探究課題として鳥屋野潟を扱う価値があると考えられる。

そこで本単元では、探究の過程において、子どもの鳥屋野潟に対する見方にズレや可能性を生じさせる、ひと・ものに出会わせる。また、複数の体験を比較させることで、鳥屋野潟はそれらが相互にかかわり合っているという相互性の概念を徐々に認識させていく学習場面を設定する。このようにし

て相互性の概念的知識を認識した子どもは、実社会や実生活にある諸問題に出会った時、多様な角度から問題をとらえ、よりよく社会に働き掛けていくことができるようになる。

3 本単元で目指す姿

考える技法を用いて体験と体験をつなぐことを通して、探究課題についての認識を更新する子ども

具体的には、「鳥屋野潟は、水や生物といった自然環境、人々の生活がお互いにかかわり合っていることが分かりました。私は始めは、鳥屋野潟を将来にわたり残すには鳥屋野潟の自然を守ることが大切だと思ってました。しかし、鳥屋野潟の自然は人々の生活と深くかかわっていることが分かり、そこに暮らす人々の生活（例えば漁業）を守ることが自然を守ることにもつながると考えるようになりました。私たちの身の回りには、自然環境と人々の生活を壊すゴミが、意外と多く捨てられています。もちろん私が捨てるようなことは絶対しないし、落ちているのを見つけたら自分たちの生活を守るためにも積極的に拾うようにします」などと考える姿。

4 本単元で育成する資質・能力

単元カード参照

5 指導計画 全25時間

単元カード参照

6 指導の構想

子どもは、鳥屋野潟と体験的にかかわることを通して、佐潟や福島潟と違い、新潟市内の中心部にこれだけ豊かな自然環境があることこそ鳥屋野潟の特色であると考え、「鳥屋野潟を将来にわたり残していきたい。そのためにできることに取り組もう」と探究課題を設定した。課題解決の一つとして、専門家からの提案により、鳥屋野潟にかかわる方々に「将来にわたり鳥屋野潟を残していきたい」という思いを伝えることにした。

1サイクル目の活動では、子どもは「鳥屋野潟の自然環境を守ることが大切である」と考えていた。しかし、2サイクル目において、鳥屋野潟にかかわる人々の生活を知ること、「自然環境と人々の生活は深く結び付いている。鳥屋野潟にかかわる方々の思いを受け止め、私たちも鳥屋野潟と共に（共存）に歩いていくことが大切である」と探究課題についての認識を更新してきた。この探究課題についての認識（自分たちの思い）を鳥屋野潟の地域の方々に伝えるために、発表内容をまとめてきた。そして、前時では、漁業組合の方に実際に発表し、ある程度の満足感をもった（C0）。

このような子どもに、次のように働き掛ける。

働き掛け1

漁業組合の方に取ったアンケート結果を分析させ、本時の課題を何にすればよいか問う。

3サイクル目の課題を設定するための働き掛けである。

漁業組合の方に取ったアンケート結果を提示する。客観的に、自分たちの発表内容を振り返らせるためである。子どもたちは、自分たちの発表内容が概ね好意的に受け止められていることに満足感をもつ。しかし、完全には届いてはいないという事実から、どうすれば自分たちの思いが全て伝わるのだろうかという課題意識をもつ。そして、「鳥屋野潟を将来にわたり残していくために、私たちも共に歩いていくという思いを届けるには何が必要か」と課題を設定する。

働き掛け2

鳥屋野潟を将来にわたり残していくために鳥屋野潟と共に歩んできた増井さんと、自分たちの共通点、相違点を問う。

設定した3サイクル目の学習課題を解決するための探究の過程に見通しをもたせるための働き掛けである。

学習課題を設定した子どもに、増井さんと自分たちを比較させるためのフレームを示す（⑤ツール

活用能力)。比較させることで、自分たちに足りないことを気付かせるのである。子どもは、**人々の工夫や努力、思いや願いに着目し、課題の探究を通して自己の生き方を問い続ける**「見方・考え方」を働かせて、「増井さんは、鳥屋野潟を将来にわたり残していくために、鳥屋野潟に直接かかわっている。しかし、自分たちは、周りの人に呼びかけてはいるけれど、直接、鳥屋野潟にかかわろうとしていない」ということに気付く。そして、「私たちも鳥屋野潟と共に歩んでいくという思いを100%届けるには、私たちが鳥屋野潟と直接どのようにかかわっていくのか考え行動することが大切だ」と、探究課題についての認識を更新する（①知識・技能②思考・判断・表現③態度）。この時、子どもたちは、比較するフレームを通じて、互いに意見を交わしながら増井さんと自分たちの共通点や相違点を話し合う（④協働性）。

働き掛け3

鳥屋野潟を将来にわたり残していくために自分がどのようにしてかかわっていけばよいか視点を与えて問う。

自分と鳥屋野潟結び付けて解決の見通しをもたせるための働き掛けである。

自分が鳥屋野潟とどのようにかかわっていけばよいか問う。その際に、自分の生活や行動、意識という視点を与える。具体的に想起しやすくするためである。子どもは、**人々の工夫や努力、思いや願いに着目したり、環境に関しての持続可能な社会の構築に着目したりして、各教科等の「見方・考え方」**を働かせ、「地域の方の思いを受け止め、共に歩もうとする気持ちが大切だ。だから、鳥屋野潟のことを思って、ゴミを見かけたら拾うなど、できることに取り組めればいい」などと、自分の行動を具体的に思い描き探究課題についての認識を更新する考える（③態度）。

働き掛け4

再度、発表の場を設け、参観者から評価を受ける場を設定する。

鳥屋野潟を将来にわたり残していくために、直接かかわってきた子どもに、上記のような場を設ける。探究的な学習を通して更新されてきた探究課題についての認識の価値を自覚させるとともに、自己の生き方を考えることを促すためである。

子どもは、鳥屋野潟に関わって暮らす方々から評価を受ける。更新された探究課題についての認識を評価された子どもは、**人々の工夫や努力、思いや願いに着目し、課題の探究を通して自己の生き方を問い続ける**「見方・考え方」を働かせ、「鳥屋野潟は、水や生物といった自然環境、人々の生活がお互いにかかわり合っていることが分かりました。私は始めは、鳥屋野潟を将来にわたり残すには鳥屋野潟の自然を守ることが大切だと思ってました。しかし、鳥屋野潟の自然は人々の生活と深くかかわっていることが分かり、そこに暮らす人々の生活（例えば漁業）を守ることが自然を守ることにもつながると考えるようになりました。私たちの身の回りには、自然環境と人々の生活を壊すゴミが、意外と多く捨てられています。もちろん私が捨てるようなことは絶対しないし、落ちているのを見つけたら積極的に拾うようにします」などと考える（①知識・技能③態度）。子どもは、こうして、**考える技法を用いて体験と体験をつなぐことを通して、探究課題についての認識を更新する子ども**になる（C n）。

6 本時の構想（本時 19/30時間）

(1) ねらい

増井さんと自分たちの考え方や取組を比較することを通して、自分たちが鳥屋野潟と直接どのかかわっていくのか考え行動することが大切であると気づき、自分と鳥屋野潟を直接結び付けて、かかわり方を考えることができる。

(2) 主張（展開）3Q（45分）

このような子どもに (C0)

- 鳥屋野潟を将来にわたり残していきたい。鳥屋野潟にかかわる方々の思いを受け止め、私たちも鳥屋野潟と共に歩んでいこう。

このように働きかけると【働き掛け1】

- 漁業組合の方にとったアンケート結果を基に話し合わせ、気付いたことを問う。
 - ・指示「昨日は、漁業組合の方々に、発表をしてきましたね。アンケート結果について、グループで集計しましょう。そして、グループ、又、全体として、良かったと思うところ、改善が必要だと思うところをアンケートを基に分析しましょう」
- ※アンケート結果を配付する。
 - ・発問「良かったと思うところ、改善が必要だと思うところを教えてください」
- ※補助発問「その理由は何ですか」
 - ・発問「今日、みんなで考え解決していく課題は、どうしますか」
- ※補助発問「その理由は何ですか」「他の皆さんはどう思いますか」

このようになり (C1)

- アンケート結果を基に話し合い、本時の課題を設定する。
 - ・鳥屋野潟の自然のことについて○満点中○点だから、自分たちの発表内容は伝わっていると思います。
 - ・私たちも、鳥屋野潟の歴史についても学んだことが伝わっていると思います。私たちも○満点中○点だからです。
 - ・発表態度については、私たちのグループは改善が必要だと思いました。特に声の大きさについてです。
 - ・全体で見たとき、私たちが学んできたことや考えたことは、伝わっていると思います。
 - ・発表態度については、全体で見ても、もう少し改善できると思います。
 - ・全体で見たとき、「私たちも鳥屋野潟と共に歩んでいく」という、一番伝えたい部分が、あまり伝わっていません。
 - ・それぞれのグループで学んだことは伝わっているけれど、全体で見るとこの思いの部分が伝わっていません。
 - ・これが伝わらないと、発表する意味が減ってしまいます。
 - ・これについて、みんなで考えた方がいいと思います。
 - ・どうすれば、鳥屋野潟と共に歩んでいくという私たちの思いが伝わるか考えたいです。

(3 サイクル目の学習課題)

このように働きかけると【働き掛け2】

- 増井さんの考え方や取組と、自分たちの考え方や取組を比較させるための、フレームを提示し、課題解決の方向性を示す。
 - ・発問「皆さんがかかわってきた人で、鳥屋野潟と共に歩んでいると思う人は誰ですか」
- ※増井さん以外に、浅野さんや村尾さんなどが出てきても取り上げる。
 - ・指示「増井さんの鳥屋野潟に対する思いや取組と、みなさんの鳥屋野潟に対する思いや取組を比べてみましょう」
- ※比較するためのフレームを提示する。
 - ・発問「鳥屋野潟と共に歩んでいくという思いを伝える上で、増井さんと自分たちの一番の違いは何でしょう」
- ※適宜問い返す。
 - ・発問「この思いが伝わるようにするには、どうすればいいですか」
- ※学習班で考えさせる。

このようになり (G2)

- 増井さんと自分たちについて比較する。
 - ・増井さんは、鳥屋野潟を将来にわたり残していくために、鳥屋野潟と共に歩んでいると感じます。
 - ・浅野さんもそう思います。
 - ・増井さんは、鳥屋野潟を将来にわたり残していくために、ボランティアで小学生などに、潟舟を乗せています。
 - ・ボランティアでゴミを取ったりもしています。
 - ・増井さんたちは、鳥屋野潟を将来にわたり残していくために、直接鳥屋野潟にかかわった取組をしています。私たちも、増井さんたちと同じだけれど、鳥屋野潟と直接かかわった取組をしていません。
 - ・私たちの取り組んでいることは、思いは一緒だけれど、発表や調べ学習などで、鳥屋野潟を将来にわたり残していくために鳥屋野潟と直接かかわっていません。
 - ・鳥屋野潟を将来にわたり残していくために、私たちも鳥屋野潟に直接かかわらなければ、思いが伝わらないのだと思います。
 - ・それを考えてこなかったから、私たちの思いが伝わりきらなかったのかもしれませんが。
 - ・大切だと思うことは一緒だけれど、実際に自分が、鳥屋野潟と直接どのようにかかわっていくか考え、行動することが大切です。

(①知識・技能②思考・判断・表現③態度)

(協働性・ツール活用能力)

このように働きかけると【働き掛け3】

- 鳥屋野潟を将来にわたり残していくために自分がどのようにしてかかわっていけばよいか問う。
 - ・説明「自分たちの思いを伝えるには、私たちが鳥屋野潟と直接どのようにかかわっていくのか考え行動することが大切なのですね」
 - ・発問「みなさんは、鳥屋野潟と直接どのようにかかわっていくことができそうですか」
- ※学習班で考えさせる
- ※補助発問「それは、実際に可能なことですか」
- ・発問「まとめましょう。私たちも鳥屋野潟と共に歩んでいくという思いが伝わるには、何が必要ですか」

このようになり (G3)

- 鳥屋野潟と、直接どのようにしてかかわっていくことができるか考える。
 - ・自分たちにできることを考えなければいけないよね。
 - ・できないことを考えて発表しても、わかってもらえないよね。
 - ・大切なのは、地域の方の思いを受け止め、私たちも鳥屋野潟と共に歩もうとする気持ちだと思う。だから、鳥屋野潟のことを思って、ゴミを見かけたら拾うとか、できることに取組めればいい。
 - ・私もそう思う。例えば、生活排水を流さないようにすることとか。
 - ・あと、鳥屋野潟にかかわるイベントが、たくさんあることがわかったよね。そういったのに、参加することも、実は大切なことなんじゃないかな。

(②思考・判断・表現③態度)

----- ここまで本時 -----

このように働きかけると【働き掛け4】

- 地域の方から取ったアンケート結果を提示する。

- ・説明「昨日の発表で、地域の方にアンケートを書いてもらいました。まとめたものを紹介します」
 - ・発問「自分たちの思いは、漁業組合の方へのプレ発表の時と比べて、よりよく伝わったと思いますか」
- ※補助発問「どうしてそのように思うのですか」
- ・指示「単元の活動全体を通して振り返りを書きましょう。」

このようになり (Cn)

- 自分たちの思いが伝わったかどうか、アンケート結果を基に振り返る。
 - ・聞いてくれた方は、私たちの発表内容に満足してくれていた。
 - ・「私たちも共に鳥屋野潟と歩んでいきたい」という思いが伝わってよかった。
 - ・自分たちが鳥屋野潟と今後どのようにかかわっていけばよいのか、考えたことがよかったんだと思う。
- 単元全体を振り返る。

鳥屋野潟は、水や生物といった自然環境、人々の生活がお互いにかかわり合っていることが分かりました。私は始めは、鳥屋野潟を将来にわたり残すには、鳥屋野潟の自然を守ることが大切だと思ってました。しかし、鳥屋野潟の自然は人々の生活と深くかかわっていることが分かり、そこに暮らす人々の生活（例えば漁業）を守ることが自然を守ることにもつながると考えるようになりました。私たちの身の回りには、自然環境と人々の生活を壊すゴミが、意外と多く捨てられています。もちろん私が捨てるようなことは絶対しないし、落ちているのを見つけたら自分たちの生活を守るためにも積極的に拾うようにします。 (①③態度)

7 検証

(1) 検証すること

- ① 構想した働き掛けにより、想定した C n になったか。
- ② 構想した働き掛けにより、想定した「見方・考え方」を働かせることができたか。
- ③ 構想した働き掛けにより、想定した資質・能力を発揮することができたか。

(2) 検証の方法

- ① 働き掛け 3・4 を受けて、.....のように、学習を通して更新されてきた探究課題についての認識の価値を自覚し、自分が実社会や実生活の諸問題とどのように関わればよいかを、考えられたかどうか、ワークシートの記述から検証する。
- ②-1 働き掛け 2 から、.....のように、人々の工夫や努力、思いや願いに着目し、課題の探究を通して自己の生き方を問い続ける「見方・考え方」を働かせているかどうかを、発言やワークシートの記述から検証する。
- ②-2 働き掛け 3 から、.....のように、人々の工夫や努力、思いや願いに着目したり、環境に關しての持続可能な社会の構築に着目したりして、各教科等の「見方・考え方」を働かせているかどうかを、発言やワークシートの記述から検証する。
- ③ 働き掛け 2, 3, 4, において、設定した資質・能力が発揮されたかどうかを、発言や学習活動の様子、ワークシートの記述などから検証する。

